

(4) 健康・安全の関北

\* 今ある生命に感謝し、しなやかでたくましい心やポジティブな思考をもとに学校生活への安心感を育む

学校は、児童や保護者をはじめ、すべての利用者にとって、安全・安心で、快適な環境でなければなりません。そのためにも新型コロナウイルスへの感染予防策の徹底は、児童の健康・安全を確保する上で、最優先の教育課題とも言えます。その中にあっても、学校施設の日常の整備だけでなく、種々の災害や事故等に対する危機管理体制の構築を図ることが求められます。つまり、学校が組織として「リスクマネジメント」を推進することを基盤として、「児童一人一人の生命・心・人生に責任をもつ」意識を高くもち、すべての教育活動を推進していかねばなりません。制限や課題があることを「マイナス」と捉えては何事も前に進みません。コロナ対応によって、インフルエンザの感染が激減しました。多くの英知を結集しコロナ禍における新しい様式も確立されています。このことを新しい分野を開拓するための「絶好の機会」と前向きに捉えることこそが「健康・安全」の土台ともなると前を向いていきましょう。今日、児童の心と体の健やかな成長のために、健康教育の推進がさらに求められています。新型コロナウイルスはやがて終息の日を迎えるでしょうが、健康であってはじめて、自らの夢や可能性にチャレンジしようとする心も芽生えてくるのです。そこで、以下の取組を通して、児童一人一人が、自他の生命を守り、自らの体力向上や健康の保持増進に対する意識を高め、生涯にわたり健康な心と体づくりに取り組もうとする態度を育てていきたいと考えています。

方針	中・長期目標	短期目標	具体的方策	評価規準	評価方法	評価主体
健康安全の関北 しなやかで逞しい心や安心感を育む	食育の充実	健康教育の一環としての食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯の健康のための歯磨き活動の奨励</li> <li>・食への意識向上を図る「なかよし給食」等の実施や学校給食週間の活用</li> <li>・本校における食品の取扱い方針の徹底</li> </ul>	歯磨きへの関心を高めるとともに、楽しい食生活の一環として「なかよし給食」を実施することができたか。	活動状況	児童 保護者
	児童の生命・安全を第一にした危機管理体制の継続	新型コロナウイルスへの感染予防策の徹底  各種アレルギー及び事故対応策の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症防止対策、安全対策〔消防計画・危機対応マニュアル等〕の改善</li> <li>・大地震、台風、竜巻、雷、大雪等発生時感染症への対応方針の徹底</li> <li>・養護教諭不在時の対応方針の活用</li> <li>・アレルギーをもつ児童への対応策の確立</li> <li>・校内の危険物の取り扱い方の徹底</li> <li>・新型コロナウイルス、インフルエンザ、感染性胃腸炎等、様々な疾病に対する対応策の推進強化</li> <li>・事故発生時の対応についての共通理解</li> <li>・エピペンの使用方法の確実な習得</li> </ul>	各種マニュアルを緊急事態に即応できる、より実践的・実用的な内容に改善することができたか。  アレルギーをもつ児童への支援や事故につながる危険物の扱いを徹底することができたか。  事故の未然防止、事故発生時の初期対応等について認識を深めることができたか。	活動状況	保護者 教職員
	安全教育・防災教育・防犯教育の充実	学校地域合同防災訓練の継続  安全教育の推進及び安全点検の実施による安全な教育環境の確保  交通安全確保の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合防災教育としての「学校・地域合同防災訓練」の継続実施 * 1年から6年までのカリキュラム 危機管理室防災課、石神井消防署、関町北4・5丁目町会、消防団、PTA等の連携</li> <li>・避難訓練の想定が多様化</li> <li>・全教職員の防災機器等の操作の習熟</li> <li>・安全教育〔薬物乱用防止教室、セーフティ教室、情報モラル教室等〕の定着</li> <li>・不審者対応訓練の実施</li> <li>・月1回の安全指導の確実な実施、定期的な安全点検の徹底</li> <li>・いつでもバディ・どこでもバディの徹底</li> </ul>	関係機関と連携し、学校地域合同防災訓練を実施できたか。  校内の避難訓練の多様化を図り、緊急時の防災機器の操作方法を身に付けることができたか。  安全な教育環境が確保されたか。 校外学習の時の安全対策の一つとして、バディシステムを活用できたか。	協議内容  実施状況	地域住民  児童 保護者  教職員
	学校の緊急情報伝達システムの活用	学校の緊急情報伝達システムの活用	・すぐメールの一本化による確実な情報の発信	すぐメールにより、迅速・正確に配信できたか。	利用状況	保護者